



FOA · EAST

NEWS No.9

1991. 2. 8.

米国感謝祭の思い出

服部 慎吾

11月第4木曜日は、アメリカ感謝祭の日である。日本で最初にフットボールの試合が行われたのは昭和9年11月29日、木曜日でアメリカ感謝祭の日であった。この日は当然アメリカの祝祭日で休日ということであるし、日本では平日であるので神宮外苑競技場も空いているので都合が良かったのであろう。

試合の結果は衆知のように26対0で東京学生選抜がYMCAに快勝した。この試合終了後、早・明・立の3大学のフットボール部員は感謝祭の祝賀パーティに上野池之端の精養軒に招待されたのである。

正式な封筒入りの招待状が一人一人に手渡された。招待主は日米協会の会長公爵、徳川家達氏であった。招待された我々部員一同はそろって精養軒に出掛けた。まだ一同は何があるのか全然見当がつかなかったが、当時一流の精養軒が会場であるので何か良いことがあるのだろう位は想像していた。入口のボーイが学生服の若造がぞろぞろ来るので変な顔で見いていたが、案内されて大広間に入ると、そこには着飾った老若男女の日本人おとび外国人が大勢いた。財界、政界の大物も随分来ていた。

我々も一寸（ちょっと）場違いの所に飛び込んだようで、度胆を抜かれた形でおとなしくしていたが、徳川16代将軍会長の挨拶でパーティが始まると食い盛りの我々は（当時としては珍しいビュッフェ式のパーティであったが）料理の乗っているテーブルに集まって皿に山盛りに料理を取って食い始めた。その時初めてアメリカでは感謝祭に七面鳥を食うのだということを知った。

出た料理の半分位は我々部員が平らげてしまったのではなかろうか。食事が終わると室内でゲームが始まった。これも動きの早い我々がほとんど賞をいただいてしまい、他の来賓には気の毒であったが、我々としては大変楽しい感謝祭であった。

このパーティは日米協会主催で在日外人の主立った人とか日本人で財政界の人を招待して毎年、米国感謝祭の日にかねられるもので、この日もパーティの終わりに当時オペラ「お蝶夫人」で世界的プリマドンナ三浦環女史が日米両国歌を歌って大変盛大な会であった。

その翌年、即ち昭和10年の感謝祭の日にも招待された。場所は同じ上野の精養軒であったが、この年は東京学生米式蹴球連盟も慶応と法政が加盟して人数も多くなり、感謝祭パーティに出席する学生服も多くなって益々盛況になって来たが、その翌年の昭和11年の感謝祭の日からこのパーティには招待されなくなった。その原因が何であるかは知らないが、想像されるのは被招待者が多くなりすぎたことと、パーティ荒らしのような感じを日米協会会員に与えた為ではなかったろうか。

何れにしても、当時の我々としては年中行事の楽しみがなくなってしまい、寂しい思いをした。

（はっとり しんご氏＝戦後、1948年～52年の日本協会理事長として活躍され1954年、現審判協会の前身である審判部を設立された。

川崎市麻生区片平1-19-21 在住）

日本社会人アメリカンフットボール協会から

木村 洋

本年も無事シーズン開幕を迎えました。平素は日本社会人アメリカンフットボール協会加盟チームの試合運営には深いご理解と多大なご協力を賜り、審判各位には厚くお礼申し上げます。

今季は過去に例をみない16チームの協会加盟申請を受理し、チーム数の大幅な増加に伴い、活況を呈して参りましたが、反面、リーグ戦の日程消化にはグラウンド不足とこれによる分散化の為、貴審判部への依存度が高いにも拘らずご迷惑をお掛け致しております。

この解決策として、貴審判部、水田部長以下、喜入、岡本両理事とも再三ご相談の結果、新加盟を含む関東社会人Ⅱ部の試合に関しては原則として社会人協会傘下Ⅰ部、Ⅱ部チームより審判要員として複数のメンバーを派遣願い、暫定的な期間を設けてゲームの消化を図る事に決定致しました。この為、関東審判部より審判用具の供与をお願いすると共に、シーズン開幕を控えた9月1日、この審判要員に対し、審判員としての心構え、メカニク、及びルールの解説など終日にわたり、講習会を開催願い、貴重な体験談を中心として盛り沢山の有意義な内容の講義を行いました。

メンバーはチームのOB、並びにプレーヤーを兼任した当面42名の登録を受付けましたが、審判経験者は数名しかおらず、大部分は未経験者ばかりであります。9月16日現在このメンバーで10試合を消化しましたが、お陰様で大きな問題もなくスムーズにゲームは運営されましたが、まだまだ序盤戦であり、今後の成り行きが問われるものと覚悟しております。

クルーを組んだ若手メンバーも審判員としてのフットボールを見ることにより今迄気付かなかった沢山の事を学べると喜んでおり、自分のフットボールのレベルアップにも充分役立つものと思います。

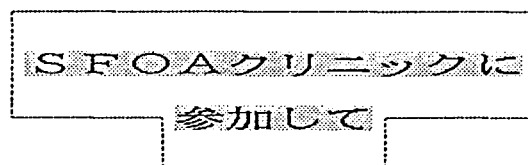
現在の審判要員も近い将来皆様と同等のレベルにまで技術を身につけ、同じ土俵の中でクルーを組ましていただける事を祈念しております。

シーズン終了後には参加願ったメンバーの種々の反省、体験、意見なども取りまとめ、ご報告したいと考えております。どうか、今後とも宜しくご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴協会の益々のご発展とご活躍をお祈りいたします。

(きむら ひろし氏=日本社会人アメリカンフットボール協会 競技運営担当)

編集註—この原稿は1990年9月下旬にいただいたものです。



数内 直樹

1990年8月9日、午後4時55分、笹田理事長と私は、SFOA STATE CONVENTION に出席するため、成田から機上の人となりました。SFOAとは、South West Football Officials Associationの略称で、テキサス州都ダラスにヘッドオフィスを持つサウスウェストカンファレンス(SWC)の審判協会です。エグゼクティブディレクターのドッドソン・ルイス氏の熱心な招請を受け、今回この2名が派遣された訳です。

そもそも日本のフットボールの審判に対しては、ルイス氏をはじめ、デビッド・ネルソン氏、ジム・ラインバーガー氏、ケン・フォークナー氏などより以前から様々な助言や便宜をいただいていた、運営面での非常に大きな参考になっています。

SWC加盟の1部校は、ご承知の通り、現在アーカンソー大、ペイラー大、ヒューストン大(昨年12月コカコーラボウルで来日)、ライス大、サザンメソジスト大(SMU)、テキサス大、テキサスA&M大、テキサスクリスチャン大(TCU)、テキサス工科大の9校となっています。



さて、今年の開催地はダラスから南へ約700 km、メキシコ湾に面したリゾート地、コーパスクリスティでありました。サンフランシスコ、ダラスフォートワースと乗り継ぎ、コーパスクリスティ空港に到着したのは9日の夜11時過ぎ（現地時間）でありましたが現地の役員の方2名に空港まで出迎えていただき、宿泊先のマリOTTホテルへ送ってもらいました。

荷物を解く間もなく、ルイス夫妻に挨拶、奥さんのペギーさんは日本人で、ルイス氏が在日米軍勤務時代に結婚され、お嬢さんが1人おられるとの事。（昨年10月に3人で来日し、クリニックを東京・大阪で実施したのはご承知の通り）

明日からのスケジュールを確認して部屋に戻り、就寝となりましたが、20時間以上の長旅でくたびれ、時差もあるというおかしな状態でした。

— SFOA年次大会

スケジュール—

8月10日（金）～12日（日）のスケジュールを
紹介しますと

【10日（金）】

7-10AM SFOA理事会

1-6PM オーディオ・ビジュアルディスプレイ

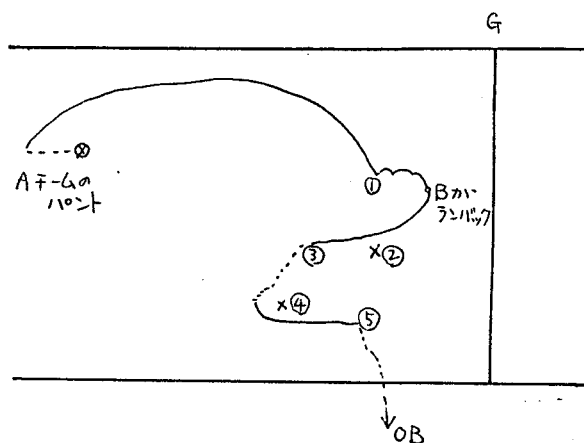
5-6PM 各支部理事会

6-7:30PM “Stump the Expert” -D・ネルソン、
B・ファーニー、J・ブラックウッド、
R・レディング

この「スタンプエキスパート」とは何だろうと会場へ行って見ると、ひな壇に並んだネルソン氏をはじめ大御所達に難解なケースを質問として浴びせ、困らせるという趣向。

出されたケースは例えば・・・

パントしたボールを①でAがタッチ、B1がランバック中に②でB2がクリッピング、③でB1がファンブルしA2がこれをリカバーして走り返す。その時④でA3がクリッピング、⑤でA2がファンブルしてボールはそのままアウトオブバウンズへ出た。さて、このケースの処置は？などというもの。



ルイス氏が口頭で出された質問をOHPのシートに書き込んで図に示し皆に見せ、壇上のお歴々は討議しながら答えを探っていくというものでした。（皆さんもどうぞ正解を考えてください）

8PM-?? Mexican Fiesta -野外のビアパーティー

【11日（土）】

7AM SFOA理事会

7AM ゼブラロープ（クロスカントリーレース）

8:30-9:50AM メカニック、ポジション別クラス

レフリー、アンパイア、ラインズマン、

ラインジャッジ、バックジャッジ、
2/3Man、6Man football、
パッシングゲーム

10-11:20AM メカニック・ポジション別クラス
(リピート)

12-1:30PM 同 上

受講者は、3回繰り返されるメカニック研修クラス
を、3種類選んで巡回して行きます。

1:45-4PM ルールチェンジャー講師D・ネルソン

4:10-5:30PM SFOA総会-会長・副会長選挙

5:45-7PM 4・5人制メカニックチェンジ

7:30-9:30PM アワードバンケット

ゲストスピーカー：元NFLアンパイア
R・ソネンバーグ氏

メカニックの各クラスを回って見た中で、ちょっと
驚いたのは、終了後事務局が受講者に、そのクラスで
しゃべったインストラクタの採点をアンケート用紙を
配ってさせていたことでした。5段階評価で、分かり
やすい話し方だったか、内容はどうだったかという様
な事をフィードバックするのが目的だと思われます。

夜のバンケットの時には、永年表彰（確か30年間
だったと思います）があり、夫人と共に出席していた
その表彰者は感謝のスピーチをして喝采を浴び、感激
で目をうるませていたのが印象的でした。

【12日（日）】

7AM SFOA理事会（毎日朝7時から理事会
とは！！）

8-9AM FCAブレイクファスト
ゲストスピーカー：テキサスA&M
ヘッドコーチ R・ハームズ氏

9-10:20AM ルールクリニック

1. NCAA SEC/ED Report

2. ルール：2編

3. ルール：5, 7, 9編

4. ルール：1, 3, 4, 6編

5. ルール：10編

6. ルール：8編

10:30-11:50AM 同 上

10:30-1:30PM Methods of Instruction

(For Chapter Program Directors)

各地区のインストラクタ向けに、指導
法の要点などをルイス氏を中心に講習
するクラス

この3日間を通じて、約500人の各地区から集ま
った審判達が和やかな会合を盛り上げていました。こ
のようなミーティングに参加する事で各人のポイントを
積み上げて行くシステムになっていると聞き、なるほ
どと思ったものです。

— SFOAの

ポイントシステム—

(1部校の審判を目指して)

SFOAでは、メンバーになったその時から担当し
た試合の内容、参加したクリニックに応じたポイント
制を採用しており、各メンバーは得点に応じたグレー
ドに分類される事になります。このポイントシステム
の内容は・・・・・・

1. ゲームポイント

ジュニアハイスクール以下 ——— 1/4ポイント

ジュニアハイスクール ——— 1/2ポイント

ハイスクール ——— 2ポイント

ジュニア・カレッジ ——— 3ポイント

カレッジ ——— 4ポイント

カレッジゲームチェンジャー・タイマーなど ——— 1/4ポイント

2. 研修ポイント

ステートミーティング ——— 4ポイント

リージョナルワークショップ（地区研修） ——— 4ポイント

リージョナル クリニック ——— 3ポイント

ディストリクト クリニック ——— 2ポイント

こうしたポイントを年々積み上げて行って20年位
経験（600ポイント以上）しないとカンファレンス
の1部校の審判などやりたくてもやらせてもらえない
のだという事です。しかも、このクラスはルールとメ
カマニュアルの試験で80点以上取る事が条件となっ
ています。カレッジフットボールがビジネスとして定
着している以上、審判組織としての責任も常に問われ
ている訳で、厳しい日常の錬成がシステムとして行わ
れています。

一 日本の観客の目も 更に肥えて来た一

日本でも、まだ部分的にとはいえテレビで学生リーグや社会人リーグの試合を数多く放映し、衛星放送ではNFLやカレッジのゲームをオンタイムで中継するようになって来ました。

プレーヤーのレベル向上の速度に我々のレベル向上も追いついていかなければならないと切実に感じる昨今であります。

最後に、このアメリカ訪問に際し、協力していただいた石島氏をはじめ、諸兄にお礼申し上げます。来年のSFOAミーティングは、ダラス郊外のアーリントンで開催される由。ルイス氏は「また来年も参加して下さい」と話しておりました。米国での審判組織のグラウンド外の活動を体験し、非常に有意義な参加でした。

(やぶうち なおき氏=関東審判部
指導育成担当理事)

ドットソン・ルイス氏の クリニックに参加して

田口 真行

1990年10月6日、土曜日の夜、六本木にある全日空ホテルにおいてドットソン・ルイス氏による審判クリニックが行われた。本年度は会場の都合もあり、ブロックリーダー、インストラクタ委員のみの参加でルイス氏が観戦した東海大学対中央大学の試合を関東審判部映像委員会(TAV)のメンバーが撮影したビデオを見ながら解説するという形式で約2時間半にわたって行われた。

ルイス氏はテキサス州を中心としたS.W.C. (South Western Conference) に所属し、現役は退いているもののNCAAのルールブック編集委員として活躍し特にオフィシエイティングの専門家で、私たちにもお馴染みのルールイラストレイテッド(ルールを絵を使って解説してあるもの)の筆者でもある。

当日のクリニックの話しの基本となっていたことは、観客にとって分かりやすい審判をするということと、予防的な審判をするということであった。例えばトスの時、コインを投げて勝ったチームが決まったらキャプテンにチョイスをたずねる前に、どちらのチームが勝ったかをキャプテンの肩をたたいて観客に知らせることなどであった。具体的な話はメカニックについてが中心で、我々日本でのオフィシエイティングの参考になることを箇条書きにしてみたい。

- (1) 選手が重なりあってアウトオブバウンズに出たような時には逆サイドにいる審判の方が近くにいる審判よりも正確に判定できる。
- (2) L、LJは今まで自分のサイドにランナーが来た場合は一度バックフィールド側に下がってランナーをやり過ごしてからランナーを追っていたが、そのような動きではなく、バックステップでサイドライン方向かダウンフィールド側に移動しなければならない。
- (3) ボールの前進地点を示すのは、フィールドの内側を向いてダウンフィールド側の片足のみを出して示す。(ダウンフィールドフット)
- (4) レディ・フォー・プレーのシグナルをレフリーが出した後、R、U、L、LJは笛をくわえ、すぐプレーを止められるよう用意しておく。Uはボールがスナップされたら笛を口から放す。
- (5) チェーンはサイドラインから6フィート(2yds)離してセットする。そうすることによってLもよいポジションにつける。
- (6) パスプレーでボールが投げられたらLとLJは全力でダウンフィールドに移動し、パスをカバーする(それゆえにフライングオフィシャルと呼ばれる)またUは体全体を回転させ、パス成功、不成功を判定する。というのはBJ、FJはレシーバーの背中しか見れない場合があるからである。
- (7) L、LJは前進地点を示す動きをする時は斜めに動かないで、まずゴールラインに向かって真っすぐに動いてからボールに近づく直角に曲がる動きをする。
- (8) パスが投げられたらボールを忘れる! ボールを見ないで投げられた方向のプレーヤーを見なければならぬ。

その他にもいろいろ参考になる指摘もあったが、それを今後の日本でのマニュアルにどう反映させていくかインストラクタ委員を中心に検討していきたいと思う。

ルイス氏によると日本の審判技術も年々向上している(フットボールの講習では今回が3度めの来日)ということであったが、まだ多くのことをアメリカから学ばなくてはならないことを痛切に感じた。

ぜひ毎年このようなクリニックを開催し、日本での審判のレベルアップを図っていきたい。

(たぐち まさゆき氏=関東審判部
インストラクタ委員会委員)

◆理事會報告◆

(文責) 編集部

FOA・EAST・NEWS No. 8に続き、第50回以降の関東審判部理事会の内容の概要を報告します。議事録は公開資料ですので、詳細を知りたい方は各理事が所持している議事録を参照して下さい。

◆第50回理事会(1990年8月2日)

・ルールブックについて

7月中に完成し、関係各位に配布したところ予想以上に販売部数が多く、増刷が必要となった。部員には8月クリニックで配布する。

・アメリカンボウルについて

昨年と同様に行うことを確認。8月3日のレセプションには審判部からも参加。

・S. W. C. セミナーの行程確認

・ブロック割りについて

千田理事よりの資料に基づき確認。ブロック、リーダーの役割はオペレーションマニュアルに反映。ブロックリーダーの選出は8月クリニックまで。

・新人オリエンテーションは8月8日に開催

・夏季クリニックの理事分担決定

・秋季スケジュールの必要人員は確保の見通し

◆第51回理事会(1990年9月7日)

・秋季スケジュール状況

社会人協会、学生連盟との打ち合せの結果、社会人のグラウンド確保調整で折り合いがつかず、一部派遣を辞退した他は予定通り。

・9月クリニック内容

25、27の両日ケーススタディ中心に開催。内容についてはインストラクタ委員会で検討。

・ルイス氏招聘について

10月3日から8日までの滞在期間中、講演、ゲーム観戦、観光などを予定。

・連絡体制の確認

年間スケジュールに基づく連絡事項は喜入理事がまとめる。用具管理、支給体制は来春までに整備。

・トランシーバーの件

高性能のトランシーバー購入の検討に入った。

この件は水田、喜入両理事に一任。

・オフィシャルカードを1000枚、チェーンクリップを200個購入予定

◆第52回理事会(1990年10月12日)

・ルイス氏の滞在報告について

10月4～5日、日光観光。6日駒沢第2Gr試合観戦、同日夜クリニック開催、7日日本協会主催のディナー、8日離日。

クリニック内容は後日全部員に発表予定。

・試合実施状況

一部のゲームが諸般の事情で中止、延期されたほかは順調に消化。

・10月定例クリニックは23、25日にルイス氏の講演を発表。

・今年度納会は例年通り平成3年2月第2週末に開催予定。納会担当を中尾、伊藤茂両理事に委嘱。

・トランシーバーの購入を決め、岡本理事に依頼。

・用具の保管、供給についてサプライヤーと交渉。

◆第53回理事会(1990年11月8日)

・秋季リーグ戦実施状況

ほぼ順調に消化されているが、部員の遅刻、欠席がある。東北-北海道のプレーオフに部員2名を派遣

・理事選挙進行のためのマニュアル草案が千田、藪内両理事より提出。大筋の日程を確認。

・納会は東京全日空ホテルで開催予定、記念品はネームタグとなった。

・11月クリニックの内容確認

◆第54回理事会(1990年12月7日)

・納会は2月8日、東京全日空ホテル。招待客28名

・理事選挙

12月14日に第1回推薦委員会を開催。水田理事が出席。

・今後のボウルゲームについて、甲子園ボウルへは従来通り3名派遣、その他のボウルゲームへも随時派遣する。

・91年度総会は4月7日開催予定。会場は水田、茂出木両理事が担当。

FOA・EAST・NEWS No.9

日本アメリカンフットボール審判協会 関東審判部・機関紙

発行：1991年2月8日

発行責任者：喜入 博

〒

編集担当：森 賢

〒

※ 無断転載、引用を禁止します